

「考えをもって参加するボランティア活動」

学校名 魚津市立清流小学校

本校では、相手のことを考えて、自分ができるところを進んで行う子供たちの姿を目指している。相手の立場や心情を思いやり、自分たちにできることを考え、実践していくように活動に取り組んでいる。

ボランティア委員会では、全校の子供たちが自分の考えをもってベルマーク回収や募金活動に参加できるようにするためにはどうしたらよいかと話し合い、それぞれの活動を工夫している。昨年度、今年度は、それぞれの活動で学級活動での話し合いや投票を取り入れた。

Ⅰ ボランティア委員会の実践

① ベルマーク集め

毎週水曜日に、ボランティア委員会が中心となり、子供たちが家庭で集めたベルマークを回収している。学校内でのベルマーク活動が地域にも広がってきており、昨年度は、校区内の公民館でもベルマークを集めてくださり、本校へ寄贈された。

回収したベルマークは、ボランティア委員会の子供たちが協賛会社ごとに仕分けている。集まるベルマークの量が多いため5年生に呼びかけたところ、愛校活動の一つとして、仕分けに協力してくれている。ベルマークの点数の集計は、PTA活動の一つとして、保護者の協力を得て行っている。

昨年度は、ベルマーク預金で商品を購入する際に、学級活動で話し合う機会を設けた。「オセロ、トランプ、UNO」の3つから、「自分の学級なら、どれがいいか」など考える中で、学級や他者のことを考えて意見をまとめる機会となった。また、ベルマーク活動を身近な活動として捉えることができ、今後のベルマーク活動への参加の意欲付けとなったと思われる。今年度も3学期に、ベルマーク預金での商品購入を行った。購入したい商品を学級活動で話し合い、全校児童の意見を反映させた。



② 募金活動

本校では、各学期に1つ、募金活動を計画している。その募金活動を通して、地域のお年寄りや障害のある人、教育を受けられない世界の子供等、様々な人々に目を向けられるように取り組んでいる。

1学期は「ユニセフ募金」を行った。委員会の子供たちが、募金の用途は全校の投票で決めることを計画した。投票は「①ウクライナ紛争(安全に学べるようにするための募金)」「②安全な水(浄化剤・井戸を手に入れられるようにするための募金)」「③通常募金(募金の用途はユニセフ協会にお任せする)」の3つの選択肢から選び、投票してもらうことになった。

投票用紙には、ユニセフ協会が作成した動画のQRコードを載せた。各自がQRコードを読み取り、困った状況にいる子供たちの動画を視聴し、世界の課題について考える機会とした。「どっちに投票しようか、悩む。」「水が大事だね。」などと話す子供も見られた。投票の結果は、「①ウクライナ紛争」と「②安全な水」の2つが同じ票数を獲得した。ただ単にお金を募金するだけでなく、自分たちの募金をどのように生かしてほしいかを意識する良い機会となった。

2、3学期には、「赤い羽根共同募金」や「書き損じはがきの回収」を行った。それらの募金活動を通して、子供たちが様々な立場や状況の人たちについて知り、自分にできることを考えるきっかけとなった。